



## 土田 恭平 (つちだ きょうへい)

## 地圏資源環境研究部門 地圏環境リスク研究グループ

本年4月より地圏資源環境研究部門地圏環境リスク研究グループに配属されました。土田恭平と申します。昨年度、東北大学大学院環境科学研究科先進社会環境学専攻の修士課程を修了し、修士型研究員として採用されました。

大学院では、地下水近傍での汚染物質の反応輸送現象に注目した研究を行うことで、土壌内の水飽和率や孔隙サイズ、地下水面上昇および下降プロセスが地下水近傍での汚染物質の反応輸送現象に及ぼす影響の有無およびその特徴を明らかにしました。

今後は、産総研での業務にいち早く順応すること、表層土壌評価基本図の整備に貢献すること、そして大学での研究分野だけではなく様々な分野の研究に取り組んでいくことを目標にしていきたいと考えております。様々な研究分野に触れ、フィールド調査や実験、数値計算などを交えて研究を行っ

ていくことで、幅広い視点から研究を行っていただけるような研究者を目指します。

未熟な私ではありますが、産総研のお役に立てるよう一杯頑張りますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。



## レゲット 佳 (れげっと かい)

## 活断層・火山研究部門 活断層評価研究グループ

活断層・火山研究部門活断層評価研究グループに新しく配属されました、レゲット佳です。今年3月に東京大学で修士号を取得し、4月より修士型研究員として勤務しております。

修士時代は東北地方における地殻変動履歴復元に向けた高精度離水年代測定手法の開発と適用を行っていました。

高精度な離水年代指標とされているヤッコカンザシゴカイが東北地方には多く棲息していないことから、東北地方ではカンザシゴカイ類を用いた高精度な地殻変動履歴復元が行われていませんでした。そこで私は東北地方の潮間帯にも棲息する環形動物である、エゾカサネカンザシゴカイが、ヤッコカンザシゴカイの代わりに地殻変動の指標となるか、放射性炭素同位体年代測定の技術を用いて評価を行い、地殻変動履歴復元への有用性を指摘しました。

今後は、離水年代を直接高精度に求められる表面照射年代測定法を用いることを考えています。この手法は、国内での適用事例の少ない手法ですので、産総研での研究で活断層評価に適用することができれば、新しい活断層評価データが得られる可能性があります。

産総研では様々な研究分野の方々との議論を重ねる機会をいただけており、今後年代測定を取り入れた活断層評価の研究の発展性をさらに高めていけると感じております。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。





## 米岡 佳弥 (よねおか けいや)

地質情報研究部門 情報地質研究グループ

2022年3月に金沢大学で修士号を取得し、4月より修士型研究員として地質情報研究部門情報地質研究グループに配属となりました。米岡佳弥と申します。大学では、岡山県に産するベイサナイトの記載、成因の検討及び、ベイサナイト中から発見したCaに富むという珍しい特徴を持ったネフェリンの記載および成因の検討を行いました。大学での研究期間は鉱物学、岩石学の知識と化学分析の技術を修得する良い経験ができたと感じています。

これから産総研では都市域の地質地盤図の作成に携わり、層序ボーリングの立案から実施、コアの観察、記載、分析を通して、関東平野地下に広がる更新統下総層群の層序対比を行います。層序対比ではテフラの対比が重要な鍵になりますが、既存の主要な対比方法ではテフラの対比先を1つに絞ることができない、層序に矛盾があるなどの問題が生じることがありました。私はこの問題に対して、大学時代に培った鉱物学、岩石学、そして分析技術を活かして、これまでとは違った視点からテフラの対比方法を検討したいと考えています。そして、一つ分野にこだわらず幅広い知識を得ることで、多方面から問題を解決できる研究者を目指します。どうぞよろしくお願いいたします。



## 志村 侑亮 (しむら ゆうすけ)

地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ

地質情報研究部門層序構造地質研究グループに配属となりました。志村侑亮と申します。2020年9月に名古屋大学大学院博士後期課程を短縮修了し、博士の学位を取得しました。昨年度は日本学術振興会特別研究員PDとして産総研に所属していました。

私の研究のモチベーションは、陸上に露出する「付加体」と呼ばれる地質体の岩相や地質構造から、付加体が形成された地震発生帯の内部構造を空間的に復元することです。上記を解明するため、付加体やより地震発生帯深部で形成される高圧型変成岩類を対象に、野外調査に基づく地質図の作成を行っています。また、ジルコンU-Pb年代測定や炭質物ラマン分光分析、火山岩の地球化学組成分析などの定量的な分析指標も組み込むことで、地震発生帯で生じる諸現象の総合的な理解を目指しています。

私の今後の業務は、白亜紀の付加体が広域的に露出する紀伊半島を対象に、5万分の1地質

図幅を整備することです。これまで培ってきた研究経験を活かしつつも、自分の研究領域にとらわれず、新たな分野に飛び込める研究者になれるよう頑張りますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。





## 松岡 萌 (まつおか もえ)

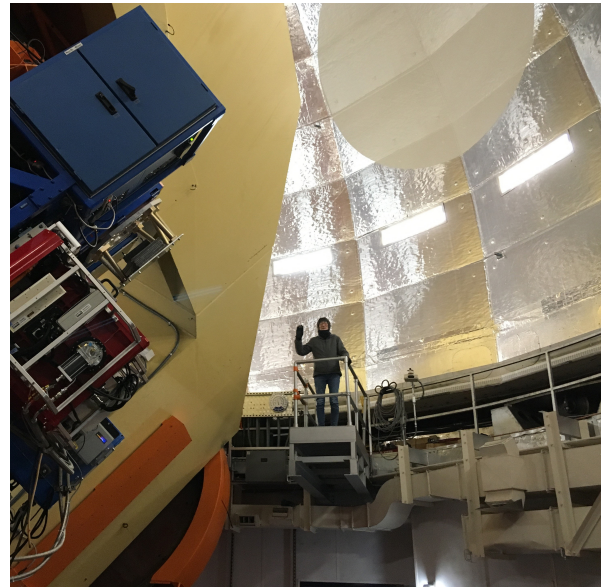
## 地質情報研究部門 リモートセンシング研究グループ

地質情報研究部門リモートセンシング研究グループに配属されました松岡 萌と申します。2018年3月に東北大学大学院理学研究科地学専攻で博士の学位を取得後、JAXA 宇宙科学研究所で3年半、その後パリ天文台で半年間のポスドクを経験いたしました。つくばには学生時代KEKでの実験等で何度か滞在したことがあり、アカデミックで国際色豊かな街での新生活を楽しみにしてまいりました。

これまで私は隕石や鉱物の分光学的・物質科学的特徴の解明と、太陽系小天体の表層物質推定について、実験・観測の両アプローチから研究を行ってきました。写真はマウナケア山頂のNASA IRTF 望遠鏡で観測した際撮ったものです。また、小惑星探査機はやぶさ2の可視・近赤外データの解析やリュウグウ試料の分析等にも精力的に取り組んできました。2024年度打上げ予定の火星衛星探査機MMXでも赤外分光計MIRSチームや試料分析検討チームに参画しており、国内外の研究者と活発に議論を行っています。

今後は、地球観測衛星のリモートセンシングデータの解析手法を身に付け、惑星表層に加えて地球表層にも視野を広げて研究に取り組んでいきたいと考えております。未經

験の分析技術や解析手法もぜひ積極的に身に付けたいと考えております。面白い研究を牽引できるアクティブな研究者を目指して精進しますので、ぜひご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



## TUM Sereyroith (とうむ せれいろわっと)

## 地圏資源環境研究部門 地圏化学研究グループ

My name is TUM Sereyroith, from Cambodia. I am a post-doctoral researcher in the Resources Geochemistry Research Group, Research Institute for Geo-resources and Environment. I started my post-doctoral program in April 2022. My research focuses on environmental management and mitigation of the acid mine drainage generated from the abandoned mine sites. Currently, I am doing a field investigation on the water quality of three abandoned mines in Japan.

Before participating with my research group, I did my PhD at Hokkaido University in the Laboratory of Environmental Geology. My PhD research theme was "Iron dynamics and passive treatment of acid mine drainage with high dissolved iron concentration". My study areas are, one was in Cambodia, and another one was in Shikabe, Hokkaido.

It is my honor to join my research group since I am able to work with many knowledgeable and outstanding researchers. I can gain more research experiences and it is a great motivation for me to work harder for my goals.

よろしく願いいたします。

